令和7年度 第32回 静岡県図書館大会

＜第４分科会　学校図書館＞

「POP王に学ぶ！学校図書館で活かすPOPの力」

講師　内田（うちだ）　剛（たけし）　氏（ブックジャーナリスト）

全国学校図書館POPコンテストアドバイザーとしても活躍する講師が、効果的なPOP表現やその活用事例を通して、学校図書館の魅力発信と読書推進の可能性を語ります。※持ち物　御自身や所属の図書館で作成したPOP

期日　：　令和７年12月１日（月）

会場　：　静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
６階 交流ホール

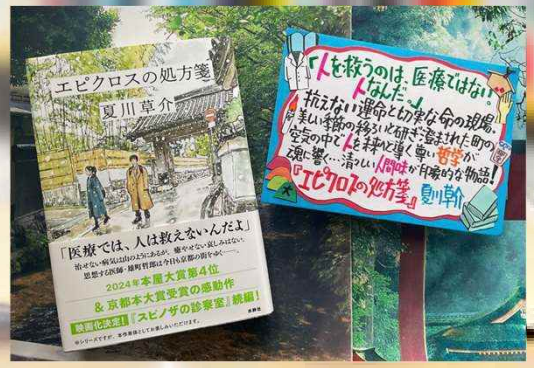
大会アンケート
（12月17日（水）まで
に御回答ください。）

静　岡　県　教　育　委　員　会
静　岡　県　図　書　館　協　会
静岡県読書推進運動協議会
静岡県読み聞かせネットワーク
公益社団法人日本図書館協会
関東地区公共図書館協議会

「POP王直伝！
目を引く手書きPOP作成講座」

自己紹介　内田 剛（うちだ・たけし）

ブックジャーナリスト。
1991年三省堂書店に入社、約30年勤務し、
2020年2月よりフリーランスに。
NPO法人本屋大賞実行委員の理事で創立メンバーのひとり。
文芸書をメインに各種媒体でのレビュー、
学校や図書館でのPOP講習会などを行っている。
これまで作成した手書きPOPは6,000枚以上。
著書に『POP王の本！』『全国学校図書館POPコンテスト公式本
オススメ本POPの作り方（全２巻）』がある。無類のアルパカ好き。



『Web本の雑誌』(http://www.webdokusho.com)の「店頭POP製作所」というコーナーがあるのをご存知ですか？ その連載者であるPOP王さんはスゴイ人なんです！ 1日1冊本を読み、1日1枚POPを書き続け、今までに書き上げたPOPは1500枚以上になります。そのPOPは簡潔な文句とかわいいイラストで、お客さんの心をとらえます。この度、遂に「店頭POP製作所」が本になりました。その名もズバリ『POP王の本！』(新風舎 1200円)です。今月はこのPOP王さんに、POPに対する考え方とPOPの書き方を教えていただきました。POPを書きたいけど書けない、書いているけど自信がない、そんな方、けっこういるんじゃないでしょうか？ POP王さんにPOPの極意を教わっちゃいましょう。

ベレベレ通信 2007年1月号
〒162-0832
東京都新宿区弁天町12 レバッカビル
有限会社 ベレ出版
Tel 03-5225-4790
Fax 03-5225-4795

1 POP不要論

あなたが今、書こうとしているそのPOPは本当に必要ですか？ POPはない方が好ましいのです。棚に置けば邪魔になるし、何よりも大切な本を傷つけてしまいます。POPがあるためにかえって売上げを落としてしまうことだってあります。説明が過多だったり乱立しすぎていたり、「売りたい」という思いが空回りしているお店を結構見かけます。自分でPOPを書く前にどの本にどのようにアピールすべきかを、お客様目線でもう一度考え直してください。その上で販売意欲をPOPというカタチに表現してみましょう。

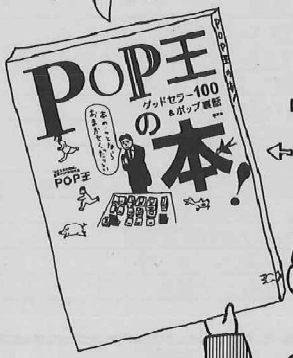
POP王さんのPOPです。

『ウール100%』フジモトマサル著
文化出版局 本体価1,000円

「Web本の雑誌」のコーナー「店頭POP製作所」を書籍化。見ているだけでも楽しいポップ100枚の実例と業界やPOPにまつわる裏話のコラムが面白い。POPの書き方までしっかり学べる書店人必見の1冊です。

2 はじめてのPOP

POP作成ビギナーの大切な心得は、楽しむことと人を巻き込むことです。孤独な作業にするよりは、POP仲間をひとりでも多く増やしましょう。著者、版元営業、編集、アルバイト、お客様などなど、周囲には意外なPOPの書き手が潜んでいます。漫画家やイラストレーターの卵なんて身近にいませんか？ もちろん依頼するのはあなた自身ですからコメントやイメージは作り手にしっかりと伝えてください。そうすればビジュアルセンスあふれた個性的なPOPが出来上がります。ひとつでも素晴らしい出来映えのPOPがあると、それにつられていいPOPが集まるもの。そのまま進化させてフェアにも繋げてしまいましょう。



『POP王の本！』
POP王著 新風舎
本体価1200円

POP王さん プロフィール

某書店勤務。長い通勤時間に1日1冊本を読破する大の本好き。本屋大賞創設メンバーの一人でもある。さわやかな風貌と柔らかい語り口とは対照的に業界を見る目は鋭く熱い。

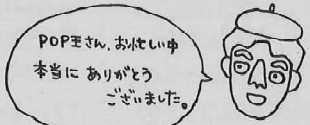
3 POPは下手な方がいい

POP作成について「書いてみたいんだけど、上手く書けない」という声を非常によく聞きます。でもPOPはインパクト重視。その本に対する思い入れや熱意が伝われば下手だっていいんです。アピールポイントがどこにあるかを的確に捉えて、イラストだけ、タイトルだけ、著者だけ、値段だけのシンプルなPOPだってありえるのです。あとは使えるモノは徹底して使うこと。新聞・雑誌の書評やチラシ、ポスターなどはセカリ貼りしてマーカーすれば簡単にPOPが作れます。注意したいのは版元が作成した販促用POPです。手書き風はそのまま使用できますが、コピーしたものはそのまま使わずに、自分のコメントをひとつ書き加えるだけで、ぐっと手作り感が増します。忙しくて面倒でも必ずひと手間かけるべきです。

POP王さんのPOP！

『だいすきなあなたに伝えたいこと』
ごとうやすゆき著 幻冬舎 本体価1,200円

『POP王の本！』用→にPOP王さんが書いたPOP。『POP王の本！』のオビについてます。



4 POPは生き物です

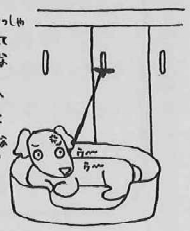
さらに効果的な販促のために、自分の棚から一歩下がってPOPを見直してみましょう。そのPOPの立て方はお客様の視線をしっかりと意識していますか？ 場所、角度、高さ、大きさなど周辺のPOPと重なり合わないことが基本です。売場も棚も本もPOPも生きています。鮮度管理はできていますか？ ロングセラーのPOP陳列にありがちですが、使いすぎて色褪せたPOPは絶対に使用してはいけません。長く売りたければ何度でもPOPを書き直し、毎日積み替えて手を掛けること。たまにはPOPを外してみるのもいいでしょう。とにかく読者に飽きさせない工夫を怠らないでください。

さあこれであなたも晴れて「店頭POP製作所」の一員です。数をこなして慣れていけば自分流のPOP術に磨きがかかるでしょう。そして何より大切なことはいかに楽しめるかどうかです。書店員自身が楽しまない限り、本の面白さは読者に伝わりません。POPというツールを有効に活用しながら活気あふれる棚作りを目指していきましょう！

今月の波平さん

波平さんは外ではとてもおとなしく、会社ではいばっている典型的な内弁慶犬。

そこで会社にお客様がいらっしゃる時や、何かいやな音に吠えてうるさい時、おしおきとして、つながれてしまいます。しばらくは反省しているものの、それもつかの間、ちょっとすると、クークーと不満をアピール。もちろんそんなことではほどけてもらえないのですが、その姿、ちょっと笑えるんですよ。



2020年9月号
べべし通信

〒162-0832
東京都新宿区
岩戸町12ビッカビル
有限会社
べべし出版
TEL:03-5225-4790
FAX:03-5225-4795

「フリーランス書店員」「ブックジャーナリスト」「POP王」である「書店人」内田剛（うちだ たけし）のやりたいこと

長年、書店員として、またの名を「POP王」として、活躍されてきた内田剛氏が、この度、書店を離れ、新たな活動を始めました。いついかなる時も、本と向き合ってきた内田氏が、これから何をやろうとしているのか、その熱い思いをお聞きしました。

＜ふたつの夢＞

今回、長年勤められた書店員を辞めて独立されたきっかけはなんだったんでしょうか。

内田さん：業界の一番いい時代も悪い時代も経験して、僕も50歳になった時に、何かもっとできることはないだろうかと考えたときに、やるなら今しかないだろうと、思い切ってみました（笑）
書店員からとしてではなく、別の場所から、何かできることがあるのでは、と思ったんですよね。
本の売り上げが厳しい中で、いかにして本の面白さを伝えるかということを一所懸命考えています。
今、僕の夢が二つあって、ひとつは「アルパカ文学賞」を作ること。
もうひとつは、全国の子供たちを対象に「POP甲子園」をやりたい。そのために、いまもいろいろ活動しています。ポプラ社さんと一緒に、「全国学校図書館POPコンテスト」というのをやっていて、今年で3回目になるんですけど、1回目からアドバイザーとして一緒にやらせてもらっています。そのつながりで、いろんな学校でワークショップをやらせてもらっていて、8月も岡山の図書館に行く予定になっています。一歩踏み込んでこういうことをやろうと思うと、書店員をやりながらは難しかったんです。
イチ担当から始まって、店長もやらせてもらい、書店の中でできることとできないことが見えてきたところもあって、だから、今度は、書店ではない場所で違うことができないかと思っています。

書店員を辞めてから、実際には、どういった活動をされているんですか？

内田さん：今、肩書きを二つ持っていて、ひとつは「フリーランス書店員」です。
30年近く、お客さまに一番近いところで働いていたので、フリーになっても書店員としての魂は持ち続けていたくて、その／ウハウをいろいろな書店の中で活かしてサポートが出来ればいいなと思っています。
実際、フリーになっていろいろな書店さんを訪れてみると、こうしたらどうだろうと、思うところはたくさん見つかるんですね。例えば、POP一枚、パネル一枚の付けかた、置きかたとか、本の置き場所もちょっと前後入れ替えるだけでもって…。自分のこれからのパフォーマンスによって、今の書店員さんにも影響を与えたいと思うし、生業として、こういうフリーランスの書店員もありだっていう前例を作りたいと思っています。

著者さん・編集さんと書店さんを繋げる活動もしてますよね。

内田さん：組織の中の書店員として、やりきれなかったと思う部分は、作り手側にも寄り添うこと。著者や編集の方と一緒になって、読者との距離をもっと縮めたい、作り手と買い手の間を縮めたいなと。今まで書店員をやってきて買う側を近づけることはなんとなくわかってきたので、今度は、作り手側を近づける方法は何かないか、それを探ってみたい。

僕は、編集の人こそ現場を見て欲しいと思うのですが、遠慮している編集さんが多い。書店さん忙しそうだからって。でも、編集さんの仕事って伝えるところまで入るんじゃないでしょうか？自分の本が、拡材なども含めて、どう並んでいるかを、もう一歩踏み込んで見た方がいいと思います。逆に営業の仕事は本づくりから。もっと垣根を越える必要はあるかなと思います。

もうひとつは、有り難くも、五木寛之さんから、「ブックジャーナリスト」という肩書きもいただいたので、使わせていただいています（笑）。確かにレビューを書く仕事もしているんですけど、僕は批評家にはなりたくない、**批評する人ではなく、応援する人でいたい**と思っています。
文芸書を中心に手書きポップやパネルの制作や販促物制作のアドバイザーの仕事をしています。特に講談社さんとは連携を深めていてWebサイト「tree」での書評や「bundan TV」というYouTubeチャンネルで本の紹介と著者インタビューなどを行なっています。読んでは書きの毎日ですが、毎日が充実していて楽しいですね。それから、本屋大賞実行委員会理事。これは、創立の時からやらせていただいています。

書店員を離れたからこそできるようになったこと、反対にやりづらくなったことはありますか？

内田さん：書店員が良かったと思うところは、毎日、納品があるじゃないですか、その中からキラッと光るものが見つかるんですよね。これは、リストだけではわからんないんです、現物じゃないと。箱を開けたときに、「これは！」というのが極にあるんですよ、「これは売りたい！」と思わせる本が。これは、書店員ならではのリアルな醍醐味ですよね。今の立場は、それができない。
できるようになったことは、以前より本をたくさん読めるようになったということですね。書店員だった時も読んでましたけど、一日に数冊は読めるようになりましたね。書店員だと本が読めない！忙しすぎちゃって（笑）。
だから、時間がない書店員さんとか、棚に手をかけられない書店さんに対してどうサポートしていけるか、このあたりが、これから一番歩み寄っていきたいところですよね。そして、それにどうビジネス的な価値をつけられるかが、これから先の課題です。

多忙な中で、書店員さんが頑張って仕事に取り組めるモチベーションは、どう作っていけばよいですかね？

内田さん：自分の場合、やっぱり「**自分が売りたいのはこれだ**」「**伝えたいことはこれだ**」**を持ち続けることが支えだった**ので、それを常に持っていられるかでしたね。それを見つけられるかどうかが、仕事を続けられるかどうかの境目だったと思います。
今、書店員さんは、モヤモヤしているものをいっぱい抱えていると思うんです。誰にも相談できなくて。そんなモヤモヤを解消させるようなサポートができればとは思います。

＜POP甲子園の意義＞

書店員の仕事とは別に、POP講習で、全国の学校、図書館に出向いていらっしゃいますが、そこで気づかされることとか新鮮に思えることとかはありますか？

内田さん：今現在は、僕の中の軸の一つである、学校や図書館でのPOPのワークショップがコロナ禍の中、活動出来ない状態にあるのが、残念なところですが、学校や図書館には本に興味を持っている人が、本当にいっぱいいるんです。だから、POPの作成を通して、本に、もっと興味を持ってもらいたい。「ビブリオバトル」と「POPの作成」が、今、学校の中でも、授業の中で取り入れられたり、とても盛んになってきていて、実際、ビブリオバトルは全国大会があります。POPはまだまだそこまでは組織化されていません。ビブリオバトルは、どうしても弁が立つ子が中心になってしまいがちですが、当然、そういう子供たちばかりではないんですよ。でも、**POPならそういう子でなくても自由に表現することができる。**絵でも文字でも良いわけですから。

ウラ面につづく⇨

内田剛さんプロフィール
約30年勤め上げた三省堂書店を今年、退社。
三省堂書店在籍時は、一担当から店長、そしてバイヤーまで幅広く活躍。
熱い思いを具現化した「POP」は、業界でも有名になり著書も出版。
退職後は、販促のアドバイザーやYouTubeのMCなど精力的な活動を続けると同時に「オフィス・アルパカ」の立ち上げ準備中。
現在、Facebook、twitterにて「オフィスアルパカ通信」発信中。
来年は小学校の教科書に「POPを書く人」として載るそうです。
新しい肩書きが増えますね。

オモテ面のつづきです

実際あった話ですが、ある小学校の3年生のクラスでPOP講習をやったときに、先生に「普段は、ずっと下を向いて一言もしゃべらない子なのに、今日初めて笑顔を見た」って言われたり、ある図書館でワークショップをやった時は、参加してくれた子の中に、図書館だけには来られるという不登校の子がいたんですが、他の学校の子とすごく楽しそうに作業をしているのを見て、司書の方が「あの子が楽しそうに話しているのを初めて見た」って泣きそうなくらい喜んでくれたりということもありました。そういうのを見ていると、POPには何物にも代え難いものがあるんじゃないかって思えるんですね。十年来、POP講習をしに行っている中学校があるんですが、だいたいひと学年で毎年250人くらい、10年間で2,500人の教え子たちがいるわけです。毎年、課題図書は決まっていて「走れメロス」なんですけど、10年間、一つとして同じPOPはありません。2,500通りの「走れメロス」のPOPがあるわけです。すべて一つ一つの個性なんです。各年代で、関心のあるものがPOPに出てきます。それによって、今、この年代の子たちが何に興味を持っているかを知ることができます。時代を俯瞰できるので面白いですよ。

最初の年の教え子が、「あの時の講習が忘れられなくて、司書になった」って先生で戻って来ました。書店員の時も今も、僕の仕事は、何かを「伝えていく」ということだと思っているので、こういう風につながっていくことが何よりも嬉しいです。

毎年、子どもたちに、これだけはぜひ伝えようと思っていることはありますか？

「書店員」と「書店人」は違うという話を毎年しています。
僕の好きな原田宗典さんがエッセイの中で「旅行者」と「旅人」の違いという話をしていて、＜「旅行者」はカメラを持っている、「旅人」は志を持っている。＞と書いていたんですね。これに感銘を受けまして、「書店員」は本を売っている販売員、「書店人」は志を持って本を売っている人だと。「書店人」の志は何かと言われたら、それは常に「自分は何を売りたいか」ということがあって、志というのは、一冊の本から、自分の担当ジャンルをどうしたい？自分のお店をどうしたい？自分の会社をどうしたい？大げさかもしれないけど、社会をどうしたい？国をどうしたい？世界をどうしたい？地球をどうしたい？など。そして、大なり小なり志を持って仕事をしている人とそうでない人とでは何が違うかといえば、どちらも、時間は同じように流れていくけども、流された先が違うんだよと。そして、自分は「書店人」として志を持って仕事をしてきた先に、皆さんとの素敵な出会いがありました。だから、同じ時間を流されるにしても、志を持っていてくださいという話をめざしています。

本は買ったり読んだりすることよりも、選ぶ喜びとか探す楽しみを経験することが大事だと思うんですが、今は、それを知らないまま大人になってしまっている人がいっぱいいる気がします。そんなときに、本という宝物を探す道しるべの一つになるのがPOPだと思うんです。そんな道しるべを、書店だったり、図書館だったり、いろんなところに立てていきたいなって思っています。

今の書店の人たちに、また、出版社の人たちに改めて送りたいメッセージはありますか？

どこを向いて仕事をすべきか、何のために、誰のためにということは、絶えず問いかけていかなければならないことだと思います。やっぱり本ってライフラインだと思うんですよ。それに携わっているという誇りを持っていて欲しいですね。きれいごとかもしれませんけど、きれいごとは言い続けなければならない。
本屋ってパワースポットなので、もっと気軽に遊びに来て欲しいですよね。楽しいって連鎖するものですから、お客さんが楽しいと思ってもらえれば、働く方も楽しくなるんですよ。自分が楽しもう楽しもうって思うと苦しくなる部分だから、まずは、演出家としてお客さんを楽しませることをしてみればいいんじゃないですかね。お客さんも出版社も巻き込んじゃえばいい。エンターテインメントな空間を創造していけばいいと思うんです。
自戒を込める意味でいえば、自分もまだまだ出来ていませんけどね（笑）。

「POP」ひとつにしても、本を売るためだけにあるわけではないんですね。この「みちしるべ」によって、著者・出版社・読者が近づいていければと願います。内田さんの今後のご活躍をお祈りします。ベレ出版も引き続き応援します！お忙しい中、ご協力いただき有難うございました。

2025.3.3

ポプラ社が全国の小・中・高等学校および在外教育施設向けに行っている「ポプラ社第７回全国学校図書館POPコンテスト」の結果を、本コンテスト特設サイト上で発表いたしました！

7回目を迎える今回も、日本全国47都道府県、海外からのご応募をいただく、ハイレベルなコンテストになりました！
762校・18,072枚のPOPから、１１部門・54作品を本コンテストのアドバイザーである“ POP王 “こと内田剛さん、弊社社長 加藤裕樹とともに選出いたしました。
こどもたちと、教員・学校司書のみなさまの創意工夫と熱い思いがたっぷり込められた作品たちを、是非ご覧ください！

第７回　全国学校図書館POPコンテスト
POP王賞　受賞作